

校長室の窓

平成28年5月9日
第3号



大河ドラマ「真田丸」。大阪城で石田三成に敵対する武将加藤清正と福島正則が登場しています。正則小学校の「正則」は、その「福島正則」にちなんだものです。

でも、なぜ名前が校名になったのでしょうか。「信長」小学校も、「秀吉」小学校も、「家康」小学校ありません（名古屋の豊正中学校は豊臣＋清正だそうです）。



実は本校の所在地「あま市二ツ寺」には、福島正則公の生誕地の碑があります。そのため、明治のころ、近隣の村々が合併した際その村の名を「正則村」としました。そこに設置した小学校なので「正則小学校」（ちなみに、合併前の村名が本校の校区名として残っています）。

先日、その福島正則公没後394回忌法要が公の菩提寺である二ツ寺の菊泉院で行われました。正則公顕彰会のみなさんは、地元が輩出した偉人であり、地元を大切にしてくれた公の遺徳をしのび、連綿と394回も法要を行ってきたのです。今年は、公から数えて14代目の子孫である福島隆人さんとそのおじいちゃん（12代目）もはるばる東京府中から来てくださいました。隆人さんは小学校6年生。

好きなものは釣りとスポーツだそうです。おじいちゃん（12代目）に「元気な子ですか」と尋ねると、「ええ、元気すぎるくらいです」と目を細めました。そのとき、正則小の何人かの顔が浮かびました。



お二人は正則公につながる歴史を生きていますが、実はどこにでもいるおじいちゃんと6年生です。正則小の子たちにも同じような「歴史」があります。正則公のように名を知られることはなくても、人のために尽くし、家族や地域を大切に、よりよい未来を作ろうとがんばってきた父祖の歴史があるはずなのです。正則の子にそれをしっかりと受け継ぐ力を育むこと、そして未来へと受け渡す力を培うこと、「正則」の名をいただいた本校の大切な仕事だと、改めて心に刻みました。

「隆人さん、これもご縁ですから、本校にも遊びに来てくださいね。」

「はい、きっと。」

さわやかな五月の風のような笑顔でした。